

みはら
MIHARA

あなたと
議会を
むすぶ

VOL. 71

市議会だより

令和 5 (2023) 年 2 月 1 日



写真提供 「雪の庭園」 藤原 敏明 さん

今号のもくじ

ページ	主な内容
2～	決算特別委員会の概要
3	補正予算特別委員会
4～	市政を問う 12人の議員が一般質問
11～	常任委員会報告

ページ	主な内容
14	議決結果（賛否結果の一覧）
15	令和 5 年次回定例会 予定表
16	わがまちに望む夢

市議会だよりは、デジタルウェブブックで閲覧できます
<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/gikai/shigikaidayori.html>



決算特別委員会の概要

令和3年度の決算認定議案は9月定例会において、決算特別委員会に付託されました。同委員会は10月11日から14日までの4日間で開催し、決算の認定他16件の審査を行いました。

―委員長報告より―

令和3年度の本市の経済は、緊急事態宣言解除により、上向き傾向がみられたものの、長期化する新型コロナウィルス感染症の影響などにより、厳しい状況となりました。

依然として、少子高齢化が進むとともに、若年層や外国人住民の転出超過も加わり人口減少が続きました。

そのような中、市の財源は減少する一方、高齢化の進行に伴う社会保障費等の負担増加や、先の見通せない新型コロナウイルス感染症への対策事業に係る支出が増加するなど、大変厳しい状況でありましたが、デジタルファースト宣言に基づく取り組みの実行及び長期総合計画に掲げる将来像の実現に向けた、各種事業が実施されました。

議85 一般会計歳入歳出決算の認定

【主な質疑の内容】

シティプロモーション事業

問 誰に向けて、何を目的に行っているのか。

答 令和3年度から5年度を計画期間とし、初年度は、まず、市内ヘシティプロモーションの取り組みを広げることとを重視した。

多くの市民や企業を巻き込みながら、「みんなで創るまち三原」プロジェクトに取り組んでいる。

経済循環調査の結果

問 市外調達を市内調達に切り替えるべきでは。また、事業者のデジタル化や、環境配慮型設備への投資ニーズにどう対応するのか。

答 市内調達に切り替えることにより、市全体に経済波及効果が見込めるとの調査結果がある。方策を検討したい。デジタル化や環境配慮型設備については、どのようなサポートができるか、引き続き検討したい。

虐待防止事業

問 児童虐待の件数や育児・しつけに関する件数が、前年度より増えているが、その要因は何か。

答 面前DVが増えたことが、通告件数が増えた要因と認識している。また

分類方法が変わったことが、育児やしつけに関する相談件数の増加につながったものと考えている。関係各所と連携を取りながら、ていねいな対応が必要と考えている。

地域医療体制推進事業

問 病院の統合について、円滑に進むよう費用等を補助したようだが、その成果はどうか。

答 電子カルテの統合など、現在はスムーズに運用されている。発熱外来の拠点としても順調に推移している。また消化器センターを設置することができ、内科は4つから7つに増えた。さまざまな成果があったと考えている。

「うまいぞ！みはら」給食事業

問 実施回数や、地場産品の活用の有無はどうか。また、手作りの給食であることの周知方法。

答 年1回実施している。調味料を除く全てを三原産で調達している。授業の中で、給食で使った食材に関することを学んだり、

生産者の姿など、現地の様子を動画で共有するなど、総合的に取り組んでいる。



学校給食

中小企業支援事業 (Fuku-Biz)

問 市内企業からの相談件数と市内企業へのPR方法はどうか。

答 14事業者、延べ114件の相談があった。PRについては、市の広報誌や商工団体を介して会員の事業者に対し、利用案内のチラシや無料相談会などの開催案内を送付するなど、周知を図った。

ブロック塀等の安全対策補助事業

問 どのような流れで申請に至るケースが多かったか。補助率はどうか。

答 指導対象となるブロック塀を抽出し、改善をお願いした。その流れで14件のうち10件は改善に至った。補助率は一定の条件を満たすものを対象に、費用の3分の2を補助。撤去の場合は15万円、建て替えの場合は30万円を上限とした。

自主防災活動補助事業

問 自主防災組織の組織率が向上しない理由は何か。

答 自主防災組織の設置の必要性を感じているものの、担い手不足が組織化を阻んでいると感じている。アンケートなどで地域の実状を把握した上で設置に向けた支援を行っている。

【反対討論】議第85号について、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が市民生活を脅かす中、一定の支援はしているものの、充分な対応とは言えない。評価できる点もあるが、総じて市民の立場に立った財政運営ではなかった。

【賛成討論】シティプロモーションの推進や、新型コロナウイルス接種事業、また、市民生活の安心・安全及び、事業者を守るための施策の着実な実施、さらに実質収支の黒字など、財政の健全性が保たれているので全ての議案に対し賛成する。

【採決】議第85号は賛成多数、残りの16件は全員一致、各決算は認定すべきものと決した。

第7回臨時会(11月7日)

補正予算特別委員会

一般会計補正予算(第4号)

【主な内容】

◎マイナポイント第2弾のマイナンバーカードの申請期限が令和4年12月31日まで延長したことにより、申請支援拡充及び交付枚数増加にあわせ体制を整備：5640万円追加

◎国の物価・賃金・生活総合対策として、家計への影響が特に大きい住民税均等割非課税世帯等に対し、1世帯当

たり5万円を給付：7億2600万円追加

【討論及び採決】マイナンバーカード交付の申請期限を延長することには賛成できない、との意見表明があったが、起立採決の結果、賛成多数をもって、原案どおり可決した。

第8回定例会

12月定例会は、12月6日から20日までの15日間で開催し、一般会計補正予算他19件、継続審査案件17件を審議し議決しました。

また、2件の発議は原案どおり可決されました。

補正予算特別委員会

議103 一般会計補正予算(第5号)

【主な内容】

◎原油価格の高騰等に伴い、直接的な影響を受けている中小事業者に対し支援金を給付し、事業の継続を支援：1億1015万円を追加

◎妊婦・子育て家庭に対し、出産育児関連用品の購入費用などの経済的負担の軽減を図る。：6420万円を追加

◎田野浦幼稚園と宗郷保育所を統合し、現在休園している田野浦幼稚園を令和6年4月1日に認定こども園として開園するために必要な改修の設計業務の委託：880万円を追加

【主な質疑の内容】

子育て世帯応援給付金事業

問 年末年始の給付に向け、事務量増が予想されるが、適切な職員配置を考えているのか。

答 就学援助費や児童扶養手当を受給している世帯を対象としていることから、給付に必要なデータ等は把握できているため、対象者からの受給申請は必要ない。簡易な事務作業などは生じるものの、大きな事務負担は生じないと考えている。

駅前放課後児童クラブ移転事業

問 元市民福祉会館の閉鎖後、当該放課後児童クラブの移転先としてどのような場所を検討してきたか。

答 現在、児童館「ラフラフ」を設置しているペアシティ三原西館2階フロアも検討したが、ラフラフは多くの方に利用されており、スペース上の課題があった。その後、小学校の空き教室や民間貸し室などを検討したが、諸条件を満たす元ゆめきやりあセンターを移転先とする方針を決定した。

問 ペアシティ三原西館の上層階にある使われていないスペースの活用は検討しなかったのか。

答 現在、使用されている貸し室なども検討したが、送迎用の駐車スペース確保や放課後児童クラブ設置に必要な

採光の基準がクリアできないなど諸課題があり、困難と判断した。

議104 土地区画整理事業特別会計補正予算(第1号)

◎関係地権者との移転交渉が見込みより進展したことに伴い、測量・調査・設計委託料及び物件移転補償費を追加：1千万円追加

議105 国民健康保険(事業勘定)特別会計補正予算(第1号)

◎一般被保険者療養給付費の一人当たりの支給額が見込みより増加したため：3億8110万8千円追加

議106 水道事業会計補正予算(第2号)

◎電力の原料価格高騰による電気料金の値上げ、令和5年度から水道広域連合企業団に移行の準備：3302万3千円の追加

【討論】議第103号について反対の立場から、子どもたちの安全・安心な居場所として駅前放課後児童クラブを元ゆめきやりあセンターに移転させることは、子どもたちの将来や日常生活の面からも、ふさわしいとは思えない。との意見表明があった。

【採決】議第103号は、起立採決の結果、賛成多数をもって、残余の3件については、全員一致で原案どおり可決した。

※それぞれの本会議での採決は14ページに記載

定例会では12月8日、9日に一般質問が行われ、12人の議員が質問に立ちました。その主な内容を、紙面の都合上、1人2項目以内に要約して掲載しました。発言内容は、発言議員本人からの寄稿によるものです。

詳細な内容は、三原市議会ホームページで閲覧できますのでご覧ください。

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/gikai/>

三原市議会 会議録検索 三原市議会YouTube

(会議録公表は、議会終了後おおむね3ヵ月を要しますのでご了承ください。)



※各議員のQRコードを読み取っていただくと、それぞれの一般質問をご覧いただけます。

本郷産廃処分場の問題点について



しょうだ よういち
正田 洋一 議員



問 本市の重大な懸念である本郷産業廃棄物処分場について、11月29日に市長との意見交換と現地視察が実現したが、遅きに失したことを苦言申し上げる。提出の住民要望の回答期日を問う。

また、視察時に住民指摘の施工不良と思われる箇所について本市は、責任をもって県に伝え、回答をもらう役割をお願いしたいが見解を問う。

広島弁護士会が、産業廃棄物処分場について、環境配慮手続条例の設置を求める会長声明を、広島県、広島市、福山市、呉市に求めている。本市は、政令市、中核市でないため、許可権限が広島県にある。即ち、広島県に対し、広島弁護士会の声明を受け、環境配慮手続条例について意見表明をして欲しい。

本条例は、住民説明会開催、周辺住民他第三者の意見提出機会の確保、事業者による見解書提出義務、環境影響についての意見および意見交換の場の設置他、多くのルールが定められている。

また、産廃処分場設置数が全国で第3位、安定型処分場では第2位となっている。即ち、業者から見れば、産廃処分場が設置しやすい。市民が重大な懸念を抱いている状況を鑑み、県に強く条例整備の提案をして欲しいが見解を問う。

答 要望書には、速やかに回答できるように努める。

施工不良と思われる当該箇所は、県に状況確認中であり、施



11月29日 要望書提出の様子

工不良と確認された場合、早急に事業者への是正指導を要望する。また、この状況については、市民の皆様丁寧に説明を行うように要請し不安解消に努める。

広島弁護士会の会長声明の産業廃棄物処理施設の設置に関する環境配慮手続条例の制定は、市として有効と考えており、県に対して要望を行う。

問 広島県への要望事項について、市長記者会見をはじめとして、市民に広く知ってもらえる形で発信を要望するが見解を問う。

答 市の姿勢を広くお知らせできるように努める。



たなか ひろき
田中 裕規 議員



居心地が良く歩きたくなる街づくりを

問 中心市街地の県道や市道の車道や歩道が、所々雑草が伸びた状態で放置されている。歩行者が不快に思わないよう通りの環境美化を徹底すべきだが、どのような管理をしているのか。

答 駅前広場や都市計画道路の植樹帯は業務委託により清掃を行っているが、その他は、市民から通報があった時などに除草や清掃をしている。

問 中心部に人を呼び寄せるためには、まずは街中の環境美化が必要である。通報があったら清掃するという後ろ向きの姿勢ではなく、積極的な環境美化に取り組む方針に変えるべきではないか。

答 居心地が良い歩行空間の形成は大切であり、積極的な環境美化を進めることは重要と考える。今後、地域の皆様と一緒に

に道路環境づくりに取り組んでいく。

問 船入櫓下の歩道が通行止めになって1年が経過した。どのような計画になっているのか。また、船入櫓跡の生垣が極端に刈られロープ等が張られている。お客様を受け入れる状態ではないが、どうする予定なのか。

答 有識者による三原城跡保存整備委員会の意見を参考に、一定の安全性を確保した上で、通行の再開に向けて協議していく。また、生垣は石垣レザー測量のため刈った。来年春季に生垣が芽吹いて回復した箇所からロープ等を撤去する。

問 船入櫓跡からの眺望は植栽の影響で良いとは言えない。思いきって不要な植栽は撤去し、手すり柵に変え眺望を楽しめる場所にしてはどうか。

●このほかの質問事項
向けた取り組み状況は



歩道の雑草

答 文化財の現状変更申請などの手続きが必要となるが、柵の設置については研究していく。

問 本市は国交省の「ウォークアブル推進都市」に登録しているが、内港再生計画等と関連性を持たせているのか。

答 本市独自のまちなかウォークアブル推進プログラムはないが、開放的で憩いの空間、歩行者にやさしく歩きたくなる港の創設に向け取り組んでいく。

一般質問



すみひろ ゆたか
角広 寛 議員



大丈夫か？三原の産廃処分場

問 11月29日、市長が視察した本郷処分場は、調整池と進入路が当初の計画通り完成していない。県に対し、改善の指示と改善までの使用停止、虚偽の申請なら許可の取り消しを要望すべきではないか。また、本市が許可した北方の埋立地は大雨時は危険ではないか。厳しく監視し、県に対し条例基準の強化を要望すべきではないか。

答 1 現在、県に確認中で、不備があれば是正指導を要望する。北方の埋立地では現場事務所がないので指導中である。条例基準変更については県の動向を注視していく。

2 県が撤去を指導中であり動向を注視していく。

3 他市町との連携を視野に入れながら県に要望していきたい。

4 自転車通勤の推奨を職員に周知する。

5 参入業者がないため、現時点での設置は困難である。

6 駐車場台数確保の観点から設置は困難である。

7 維持管理が容易でないため困難である。



汚染危険のある浸透水を直接川に流す排水路（本郷処分場）

ゼロ・カーボン施策

問 公共施設において、早急に次のことに取り組むべきでないか。

- 1 空調温度を18度に。
- 2 雑紙の回収促進とマイボトル、マイコップ、マイ箸の推進、プラスチックごみの資源化を。
- 3 カップ式自販機の整備
- 4 自転車推奨と庁舎にサイクルセンターの設置。
- 5 企業設置型太陽光発電設備からの買電を。
- 6 EV急速充電機設置。
- 7 薪ストーブの設置。

●このほかの質問事項
ふるさと納税の充実を



みやがき ひでまさ
宮垣 秀正 議員



学校給食費無償化の取り組みについて

問 子育て世代にとって子育て費用の中で一番お金がかかるのは学校給食だといわれている。本市も学校給食費を無償化にしてはどうか。

答 学校給食は小学生4114人、中学生2042人に提供、小学生は年額4万5600円、中学生は5万1300円を食料費に相当する額としている。給食費は約3億円の財源確保が必要である。国の学校給食に関する動向を注視し、引き続き慎重に検討していく。

答 学校給食費の無償化は、継続的な財政負担などの課題がある。国の動向や他市町の状況を注視しつつ、引き続き慎重に検討していく。

イノシシ・シカの被害防止対策について

問 被害状況及び捕獲状況について問う。

答 農作物などの被害額は令和3年度902万円で、年々減少し、捕獲は1746頭、前年より約500頭増加している。

問 イノシシ・シカなどの被害防止対策の補助事業は拡充できないか。

答 国の事業を活用したイノシシ・シカの捕獲の交付金は、成獣と幼獣で1頭当たり6千円の差があるが、捕獲後の処理の大変さは変わらない。成獣と幼獣の単価の差をなくすことを県や国に要望

する。小動物の捕獲を対象とすることについては、検討していく。

問 市、地域、猟友会など関係者との連携は、市がリーダーシップを発揮すべきではないか。

答 市が市民から被害の連絡を受けた後、担当者が状況を確認し、被害原因や効果的な防護柵の設置など助言を行っている。わなの設置は、猟友会等と連携して実施しており、今後も、市が地域と猟友会などと連絡を密にし、獣害対策を進めていく。



捕獲されたイノシシ

一般 質 問

郷土愛を育てる教育



むらかみ まい
村上 真以 議員



問 ①郷土愛を育てる為に、どのような教育を行っているのか。

答 ②やっさ踊りを市内全域の幼児期や小学生に取り入れる事はできないのか。③小早川隆景公についての学習はどのように行われているのか。

答 ①②従来から、郷土愛を醸成する取り組みの一環として、やっさ踊りに取り組んでいる小学校は4校ある。今年度はすべての学校において、音楽科で民謡と併せて「三原やっさ節」を取り入れやっさ踊りに慣れ親しむ環境づくりに努めている。今後もやっさ指導者とのリモート交流や他市の取り組みも参考にし、郷土愛が醸成されるよう努めていく。

段ボールで作成した甲冑を身にまとい甲冑行列を行う学校もある。地域の特性や伝統文化を大切にし教育活動を実施している。

GIGAスクールの取り組みについて

問 ①GIGAスクールの好事例、また、その共有について問う。

答 ②教員の業務改善にはつながっているのか問う。

答 ①欠席を余儀なくされた生徒が授業に参加し、スライドを共同編集するなど、従来は実現できなかった形で授業も行われている。また、中学校の生徒会長が、他校の生徒会長に呼びかけ生徒会リモート会議を開催し、生徒会の取り組みについて意見交換を実施した。職員研修の際にも好事例の紹介や交流の場を

設定している。更に、ICT巡回相談員による技術サポートや共有ドライヴを利用し教材の紹介や活用サポートも行っている。今後も成果を共有しながら取り組みを進めていく。

②ICT端末を使つての教材作成や電子化されたドリル教材を使用することにより、業務の簡略化や作業時間の軽減に繋がっている。併せて、校務支援システムの活用により各業務処理作業の効率化が図られている。今後も、整備されたICT環境の効果的な活用、研究に努めていく。



GIGAスクールの取組



なかさき ゆうぞう
中迫 勇二 議員



優待乗車証の活用状況と取り組み

問 高齢者や障害者の移動手段として福祉増進に寄与している優待乗車証は様々な利用状況がある一方、自家用車の利便性を優先され、本制度を利用されない方もいる。

超高齢化社会を迎える2025年問題や運転免許証返納後の移動手段として不安を抱く中、利便性の高い制度に継続する必要がある。

敬老優待乗車証及び障害者優待乗車証の活用状況と今後の取り組みについて3点問う。

① 優待乗車証の申請者数や地域・年齢別の交付状況について。**②** 利用実態の把握とデジタル化について。**③** 超高齢社会を見据えた本制度の進め方について。

答 **①** 70歳以上の高齢者及び基準の等級に該当する障害者の方の外出支援を目的に実施し、それぞ

れ50%以上の交付率となっている。年齢別では高齢者になる程支給率が高い。コロナ禍以前の平成31年度の利用実態と比較すると、高齢者は約55%、障害者は約76%に減少しているが、活動自

粛の影響もあることから、社会活動全体の回復による利用者の増加を期待している。

② 優待乗車証の利用状況の把握は、バス会社への補填額算出の為、シルバー人材センターに委託し、年2回全路線バスに1日乗車し、使用状況と乗車区間を把握している。

デジタル化による把握については費用と効果の点から事業者も導入困難と考えている。次期地域公共交通網形成計画作成時の令和6年度にデジタル技術活用効果について検討する。

③ 本事業は身近な公共交通の路線バスを使い外出支援する目的で実施してきたが、社会情勢の変化による便数減少などの課題も出てきている。一方コミュニティ交通の整備も地域と協働で進められており、路線バスの課題を補完する役割も担っている。今後は、優待乗車証事業の継続と併せ、バス路線の維持と地域コミュニティ交通の整備を行い、利便性を確保した外出支援に取り組む。



移動手段の活用による福祉増進

一 般 質 問



すぎたに たつじ
杉谷 辰次 議員



中山間地域における行政の支援及び施策について

問 **①** 大和支所から世羅中央病院への直通バスの実証運行が9月末で終了したが、その後のコミュニティ交通の構築はどのように検討されたのか。

② 店舗等の閉店・撤退に伴う買い物困難者への対策をどのように考えているのか。

③ 交通弱者にタクシーチケットの助成ができないのか問う。

答 **①** 中山間地域における住民のより利便性の高い移動手段の確保は、喫



買い物困難者への支援を

② タクシー代補助事業の導入は、恒常的に多額の経費が必要となることなど課題が大きいことから、交通弱者に対する移動支援は、公平かつ広く利用することが可能な路線バスや地域コミュニティ交通を基軸と考えて

緊の課題であることは十分に認識している。今後、新技術の導入を含め地域と協働し、スピード感をもって検討する。

③ 全国では、地域の暮らしを守るため、地域住民が中心となって形成し、課題解決に向けた取り組みを行う地域運営組織が約800の市町村で組織されている。今後、地域運営組織の事例を研究し、買い物困難者対策として、店舗の運営などに

取り組み意欲のある地域に対する支援制度の構築を検討する。

おり、これらの継続や利便性の向上、運行エリアの拡大などを検討する。また、検討と並行して、これらのサービスを受けることが困難な方には、様々な移動手段の一つとしてタクシーの活用を研究する。

中学校における運動部活動の地域移行について

問 国のスポーツ庁の有識者会議では、2025年度までには公立中学校の休日の部活動を地域のスポーツ団体等へ移行しようと考えているが、どのような見解か問う。

答 現在、三原市体育協会加盟団体との連携、人材バンクシステムの整備について検討をし、教員・中学校生徒・小学校高学年児童及び保護者を対象としたアンケートを順次実施することにより、実態やニーズの把握、分析を進めているところである。国・県の動向を注視しつつ、地域の持続可能なスポーツ環境の整備を図る。



寺田 もとこ
議員



高い国保税は1万円の引き下げを！

問 コロナ禍や物価高騰で市民生活は厳しい状況だ。本市国保の5億5千万円の基金と4億円の黒字を活用して、一人当たり1万円の引き下げを実施すべきではないか。

また、負担の大きい子どもの均等割は廃止し、個人事業主への傷病手当金制度を創設すべきではないか。

更に、令和6年度から国保運営が広島県になり県が市町の国保の財布を丸ごと握ることになる。どのように対応していくのか問う。

答 県と市町の連携会議で、基金等、市町の保有財源について活用を検討する。医療費が増加傾向にあり、税率の上昇が見込まれる中、一人1万円の引き下げは困難と考えているが、今後県が示す基準を基に検討する。

子どもの均等割減額は

の売却を基本原則として

いる。中心市街地に望む公共施設として、公園・広場の意見が多いことも理解しているが、内港再生や円一官庁街エリアへの公園広場の設定も考えており、元市民福祉会館については民間活用を目指したい。

問 将来の街づくりでは市民の意見やアイデアを募るべきではないか。

答 中心部は都市機能が集積したエリアであり、土地の活用策は可能な限り民間で進めてもらいたいので民間へ売却の方向で進めたい。

市民福祉会館の跡地活用は市民とともに！

問 市の保有する財産は市民共有の財産だ。元市民福祉会館の売却はい

つ、どこで決まったのか。活用か処分かは、地域住民の要望や市民の意見、アイデアを聞くべきではないか。隣接する船入櫓を活かした公園にするのも一案ではないか。

答 市保有の土地や建物で将来的にも行政利用の予定がないものは民間へ



元市民福祉会館

●このほかの質問事項
●学校の女子トイレに無償の生理用品を

一般質問



萩 ゆみこ
議員



南海トラフ巨大地震について

問 「今後30年以内に起こる可能性が70〜80%」と言われ続けて久しい。広島県地震被害想定調査報告書によれば、旧三原市市街地及び沼田川流域は震度6強、土砂災害は275箇所、死者数1044人となっている。津波被害の想定と対策を問う。

答 最悪の場合地震発生から5時間32分後に最大波が到達し、海面水位は3・2m、津波による死者数876人と想定される。

問 北海道胆振東部地震のような大雨後の地震を想定しているか問う。

答 土砂災害警戒区域には元ゆめきやりあセンター等がある。ここには駅前放課後児童クラブと歴史民俗資料館等の移転が計画されているが十分な対策を要望する。

問 大規模な自然災害の発生時にも人命を守ることを第1に被害の最小化を図り、迅速な復旧に努

める。土砂災害のハード対策事業についても優先度を検討し計画的に事業を進めていく。



地震と津波

空き家対策について

問 全国的に空き家が増加する中、本市も増えている。状況と市への相談件数を問う。

答 市の実態調査による空き家は令和3年度末で1760件、総務省調査による空き家率は平成30年度で20・2%。今後増加が予測される。

問 空き家バンクに関する相談は143件、苦情や補助金に関するものが48件となっている。

答 空き家の相談ではどうすれば良いかわからない方も多い。相談窓口を一本化してはどうか。

問 窓口を建築課へ一本化し、必要に応じて相談先を案内する。

●このほかの質問事項
●本市のデジタル化について
●食品ロス削減について



まさひろ ともはら
政平 智春 議員



ヤングケアラーへの対応について

問 ①本市のヤングケアラーの実態は。数値と割合は。

②このような子どもたちの学力保障は。

③進学を希望する場合経済的な保障はあるのか。

④今後の本市の方針は。

答 ①実態調査を行った結果、「お世話をしている家族がいる」と回答したのは、中学生で6・3%、高校生が4・2%。そのうちヤングケアラーと自覚しているのが中学生8人、高校生2人である。

②ICT機器によるリモート授業や個別学習など、個の実態に応じた補充学習を行っている。

③進学の保障については、経済的理由により就学が困難な生徒に対して、奨学金を制度化している。

④今年度から中高生の実態調査や関係者の認知度

向上を図る研修会を実施し、具体的な案件に対しては関係機関が連携し取り組みを進めている。

来年度は、ヤングケアラーの家庭での負担を軽減するため、家事支援サービス制度の検討や子どもたちが相談しやすくなるため、SNSでの相談窓口の設置等、支援相談体制を整備する予定としている。

17の人権課題の対応について

問 ①法務省の17の人権課題の職員への周知は。

②それぞれの人権課題を担当課でどのような研修をしているか。

③被差別当事者との連携は。

④今後の対応計画は。

答 ①17の人権課題についての職員に対する周知は、新規職員、中堅、係

長、部課長級など職級を対象に、主に同和問題を中心とした研修などで行っている。

②研修などで学び、またそれを各職場に持ち帰り、伝達研修などを行うことで、人権尊重の意識を共有し、実務に当たるとの心がけている。

③それぞれの当事者や支援者などと連携を取り、当事者が持つ問題を理解し、寄り添えるよう努めている。

④個別の課題の現状とその取り組み、方向性などを示した市人権教育・啓発推進計画に沿い対応していく。

人権

一般 質 問



たくしげ まさとし
徳重 政時 議員



本市の農業政策について

問 国際情勢を受けて肥料価格が高騰中だが、過去5年間の肥料・農薬の価格の推移はどうか。

答 令和2年までは大きな変動の無かった肥料だが、原料供給の停滞や円安などの影響で、昨年の秋頃から高騰し令和2年と比較すると、昨年の秋で1割弱、今年の秋で4割以上高騰している。

令和3年までは農薬の変動はあまり見られなかったが、令和3年と比較すると、現時点で3%ほど上昇している。

問 肥料・農薬から農業機械の部品に至るまで、農業資材全般の供給状況や、その価格の推移はどうか。

答 一部の商品で2割から3割程度値上がりしている。一方で、農業機械の中には、1年先の納入すら担保できないものがあり、今後の見通しは不

透明である。

問 国や市、JAなどによる緊急支援の対象者、支援内容と、利用状況は。

答 令和5年までに化学肥料の使用量の2割低減を要件として、令和4年の秋肥、令和5年の春肥に使用する肥料代の高騰を国が創設した。受け付けはJAで100件程度の申請を受けている。

本市では、化学肥料の代替として有機堆肥を活用する農業者に対し、有機堆肥1トンあたり2千円の補助を行うこととしたが、申請者はいない。

問 ECサイトでの販売・6次産業化推進協議会・三原米粉の里プロジェクトについて、これまでの取り組みと成果、また、今後の展開は。

答 ECサイトでの販売は、2つの国内大手サイトでの出品・販売実績が

ある。現状では、低調であるが、地域産品の販路拡大の一環として取り組みを拡大予定である。

6次産業化推進協議会は今年度、三原米粉の里プロジェクトに取り組む中で「おこめ工房」による野菜のレトルト商品の開発、増田製粉が行う米粉のパンケーキミックスの開発に取り組んでいる。今後は、2次・3次産業者への取り組みだけでなく、1次産業者への支援にも取り組む。



「第2期三原市農業振興ビジョン」表紙より



参考：リビエラ逗子マリーナ

新幹線駅が近い港の再生計画は？



すみだ
住田 まこと
誠議員



問 現在、三原内港再生基本計画が作成されている。新幹線の駅に日本一近いという環境を活かした計画が必要だと思いが、これまでの検討内容を問う。

答 中心市街地の新たな賑わい創出に向け、旅客船や観光クルーズ船の発着拠点である三原内港について「人が訪れ、楽しみ、憩える場所をつくる」という方向性で基本計画を昨年度策定した。

「日本一、人と海と街が近い内港へ」のコンセプトで航路機能のみならず公園機能やイベント広場機能などを導入する予定。今年度は地元関係団体と検討部会を開催し、港の景観や賑わいについて、県が策定する実施計画に反映させるよう意見のとりまとめを行っており、引き続き県と連携して取り組みを進めたい。

意見 駅と港が近い環境をヨットやボートのレジャーで活用を。

デジタル改革で支所の在り方も変化する？

問 1市3町が合併して17年が経過した。改めて本庁舎と各支所の役割と業務体制の見直しや現状の課題を問う。また、デジタル化で業務の改善が進んでいるが、今後の支所の役割について問う。

答 市役所本庁は行政事務を執行する事務所で、全市民に対する各種行政サービスを提供する拠点であり、災害発生時の総合的な対応拠点の役割も担っている。支所は地域住民の行政手続きの窓口であり、地域づくりや災害対応の拠点という役割も担っている。合併当初は、各支所3課3係で69名の職員体制だったが、現在は1課2係41名で運営している。地域に精通した職員の減少もあり、地域の実態やニーズの把握に時間を要するという課題がある。

マイナンバーカードを利用したコンビニでの各種証明書の受け取りやRPAの導入など、デジタルによる業務改善の進展で支所業務の環境は変化しているが、地域に密着した拠点という役割は維持すべきと認識している。今後、市民ニーズの変化やデジタル技術の進化等も踏まえ、中長期的な視点で支所の在り方を検討していきたい。

全国市議会議長会 研究フォーラムに参加して ～デジタルが開く地方議会の未来～

10月19・20日の2日間、長野市で開催されたフォーラムに、議長を含む13名の議員が参加した。

1日目は「コロナ後の地域経済」と題した基調講演の後、「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」についてパネルディスカッションが行われた。議会として個人情報取り扱いについて考える必要性や、有事の際、議会の機能が発揮できるように普段から備える必要性がある等の意見が出された。

2日目は、先進市の茨城県取手市議会、岐阜県可児市議会、兵庫県西脇市議会の各議長から「地方議会のデジタル化の取り組み報告」が行われた。タブレットの導入により育児・介護時や、濃厚接触等で自宅待機中も会議に参加することができた。また、完全オンラインの議会報告会を開催したが、オンラインで実施することにより、今まで参加のなかった若い世代の参加があった等の報告があった。

本市議会でもタブレットを導入しデジタル化を進めているが、今回フォーラムに参加して、今後もデジタル技術を活用して、より一層議会と市民のコミュニケーションを広げることが大事であるとあらためて感じた。



常任委員会報告

総務財務委員会

12月定例会付託議案審査

【主な議案】

議107・108 「三原市個人情報保護に関する法律施行条例制定・一部改正について」

【概要】個人情報保護法が一元化されたため変更する。

議110 「三原市職員の定年等に関する条例等の一部改正について」

【概要】職員の定年を60歳から2年ごとに1歳ずつ65歳まで段階的に引き上げるにあたり、関連する条例を改正する。

【主な質疑の内容】

問 定年延長を希望する職員が予想より少ない場合の職員確保は。

答 追加の採用試験の実施や会計年度職員の配置など適正な人員確保に努

めていく。

問 役職定年制度により仕事に対する意欲の低下が懸念されるが対策を考えているのか。

答 早い段階から研修を行い、能力が発揮できる環境を整えていく。

【採決】

採決の結果、議第107号他8件は、全員一致、原案どおり可決した。

行政説明案件

「元ゆめきやりあセンター」の活用及び円一官庁街エリアの考え方について

【概要】①歴史民俗資料館は元ゆめきやりあセンターに移転し、現建物は解体を行う。

②駅前放課後児童クラブを元ゆめきやりあセンターに移転し、旧児童館は元市民福祉会館とあわせて売却等の処分を進める。

せて一体的整備・活用を検討する。

【主な質疑の内容】

問 グランドデザインとの整合性は。

答 今回の提案は、円一官庁街エリアの公園・広場としての一体的整備・活用で周遊性の機能向上や世代間交流の場という点で繋がる。

問 現在のシルバー人材センターには作業場が併設されているが、元ゆめきやりあセンターに移転した場合はどうか。

答 作業場所は別途協議

検討する。

問 元ゆめきやりあセンター周辺は非常に災害の多い場所だが、その対応はできているのか。

答 今後、必要な体制整備等を検討していく。

「本郷支所移転方針について」

【概要】①建物面に課題のある本郷支所を現支所本館から支所別館に移転させ、本館は安全面に配慮し解体を行う。

②支所別館を活動拠点にしている本郷コミュニティセンターは、本郷生涯学習センターに集約を図る。

③支所移転時に複合化を検討していた本郷保健福祉センターは、現地にて継続する。

【主な質疑の内容】

問 本郷支所の別館は延べ床面積が3分の1程度になる。執務スペースに問題は生じないか問う。

答 本郷支所本館ですべてのスペースを使っているわけではない。支所別館でも執務スペースに問題は生じない。



元ゆめきやりあセンター



本郷生涯学習センター



本郷支所・別館

12月定例会付託議案審査

議116 「三原市宇根山家族旅行村の指定管理者の指定について」

【概要】 宇根山天文台を宇根山家族旅行村の構成施設とし「宇根山活性化グループ」に令和5年4月1日から8年3月31日までの3年間委託する。

【主な質疑の内容】

問 公募によることが原則とされている指定管理者の候補者選定において、非公募を選出した理由は何か。

答 今回の候補者選定は、三原市指定管理者制度導入方針に示している非公募で選定できる場合の考え方に基づき、天文台という業務の特殊性や専門性、また、地域活性化の観点等から非公募が適切であると判断したものである。

議117 「三原市北方グラウンド・ゴルフ場の指定管理者の指定について」

【概要】 本年度末で指定期間が満了となる特定非営利活動法人「森のおさるさん」に、引き続き令和5年4月1日から10年3月31日までの5年間委託する。

【主な質疑の内容】

問 現在の指定管理者を継続して指定しようとするものであるが、指定期間が10年以上と長くなる中で、当該指定管理者には、これからも利用者のニーズ等に適切に対応し、運営改善に取り組み姿勢の継続が期待できるのか。

答 指定管理者には選考審査の際に、利用者の声に寄り添った管理運営に努めるという意思を確認しており、適切な対応をしてもらえるものと考えているが、利便性の向上に向けて、更なる改善が図られるよう、市としても協力していく。

議118 「三原市斎場の指定管理者の指定について」

【概要】 本年度末で指定期間が満了となる「まごころサービスグループ」に、引き続き令和5年4月1日から10年3月31日までの5年間委託する。

「非常備消防施設整備について」

【採決】

採決の結果、議116号他2件は、全員一致、原案どおり可決した。

行政説明案件

「第3期三原市幼稚園・保育所等適正配置実施計画の変更について」

【概要】 本計画は、令和2年度から6年度までの5力年における、幼児教育及び保育サービスの確保のため幼稚園及び保育所等の適正配置について定めることを目的とする計画で、今年度次のとおり計画を見直すものである。

①南幼稚園で3歳児を受け入れ、預かり保育を実施する。
②休園中の田野浦幼稚園を幼稚園型認定こども園として整備し、就学前教育の質の向上に取り組む。
③宗郷保育所は田野浦認定こども園に移行する。

「敬老事業の見直しについて」

【概要】 第2次三原市消防団施設整備計画を見直し次のとおり実施する。

また、本事業4施設は、緊急防災・減災事業債（交付税算入率70%）を充当するものである。

①令和5年度から幸崎分団が所管する7施設を5施設に整理し、幸崎町渡瀬（旧市宮住宅跡地）に幸崎分団北屯所を新設する。
②令和6年度から須波分団が所管する6施設を須波一丁目（旧コミュニティセンター跡地）に統合し、須波分団屯所を新設する。
③令和6年度から沼田西分団が所管する3施設を沼田西町小原（小原工業団地内）に統合し、沼田西分団屯所を新設する。
④令和7年度、大和東分団が所管する4施設を大和町下徳良（旧はとむぎ茶屋他）に統合し、大和東分団屯所を新設する。

【概要】 「現行制度の課題」
①敬老会への出席率が低い。
②会場確保や役員不足、地域の負担が大きい。
③敬老事業以外にも幅広く活用できる補助制度を望む声がある。
④今後、後期高齢者は増加するため補助費用が増加する。

「実施団体へのアンケート結果」
①高齢者に敬意を表し、長寿を祝う。敬老意識の高揚を目的とする敬老会について↓敬老会は必要（57・8%）、敬老会以外の方法も検討すべき（33・0%）
②敬老事業以外の用途にも活用できるようにすることについて↓使用可能にしてほしい（56・9%）、現行がよい（37・1%）

【見直し案】
①一人当たり2600円（敬老会開催）、又は2000円（記念品配布）を1500円から2000円の一律補助。

②地域の実情に応じて敬老事業以外にも広く活用できるように対象事業を拡充。
③令和5年度に内容の周知を行い、6年度から変更を予定。

【主な質疑の内容】

問 敬老事業以外にどのような事業を想定しているのか。

答 地域の見守りや健康づくり、居場所づくりなど高齢者福祉の充実に資する地域活動であれば活用可能としたい。

「三原市医師会病院と山田記念病院の統合について」

【概要】 医療法人社団明清会の運営する山田記念病院事業を一般社団法人三原市医師会へ継承し、三原市医師会病院と令和5年4月1日に統合予定。三原市における脳血管疾患への対応の強化、緊急医療体制の強化を図り地域の医療ニーズに 대응する。

12月定例会付託議案審査

議119 「三原市漁港管理条例の一部改正について」

【概要】広島県が策定した放置艇解消のための基本方針の改定を踏まえ、プレジャーボートの係留に係る使用料の徴収開始時期を変更するもの。

【主な質疑の内容】

問 小型船舶の泊地指定状況は。

答 国道185号道路堤防の係留環について道路管理者と協議中のため、指定できていない。

問 放置艇の状況はどのようなになっているのか。

答 153隻中20隻程度は船舶検査切れ等である。船舶番号等から所有者の特定に努め、泊地の指定後、撤去等の指導を行う。

問 徴収開始時期の延期で整備に影響はないのか。

答 影響は特にない。

議120 「三原市営住宅等の指定管理者の指定について」

【概要】三原市営住宅、共同施設及び市営住宅駐車場における指定管理者を指定するもの。

【主な質疑の内容】

問 公募3団体の選定結果で、受託金提示額の評価が0点の団体がある。これはどういうことか。

答 審査要領に基づき、提示額を基準に照らして機械的に評価したもの。

問 選定団体は、苦情対応や個人情報管理等の点数が、他団体より低い問題はないのか。

答 評価点数の中央が普通評価であり、それより高く必要最低限はクリアしており問題はない。



三原市営住宅管理グループ

議121・122 「市道路線の認定について」

【概要】沼田東町七宝、明神四丁目において、開発行為により築造された道路を、新たに市道として認定するもの。

【採決】

採決の結果、議第119号他3件は、全員一致、原案どおり可決した。

行政説明案件

「第2期三原市中心市街地活性化基本計画（素案）の策定について」

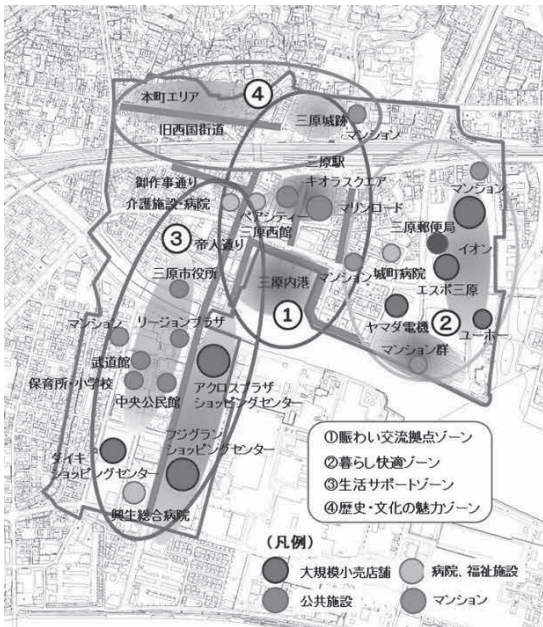
【概要】第1期が令和2

年度末で満了し、効果と課題を検証して策定した第2期基本計画の素案について説明を受ける。

【主な質疑の内容】

問 第1期の反省を踏まえ、全体管理協議会や周辺商店街と連携を強化し集客拠点の機能を波及させるとしているが、これまでも連携している中で、あえて連携強化とは具体的にどうすることか。

答 これまでも様々な取り組みをしてきたが、コロナの影響があり数字面は減少した。第2期はさ



三原市中心市街地活性化基本計画資料
(4つのゾーン区分)

らなる強化を図り事業を計画的に進め、賑わいを作っていくという考えで記載した。

問 元円一庁舎跡地の具体的な検討状況は。

答 検討を進めており、今年度中に方向を示したい。

「本郷都市計画事業 東本郷土地地区画整理事業 事業計画の変更（期間延伸等）について」

【概要】本事業計画の事業期間の延伸及び収支計画における収支の変更について説明を受ける。

【主な質疑の内容】

問 6カ年の延伸根拠は。

答 移転補償や換地の調整で3年、同時に令和5年から10年までは工事、令和11年は換地処分を考えている。

問 交渉が難航している地権者の主な理由は何か。

答 主な反対理由は土地の減歩負担や、移転の負担などである。

「三原内港再生に向けた取組について」

【概要】実施計画策定に必要な港の活用及び景観に関する関係者の意見の取りまとめ結果と、今後のスケジュールについて説明を受ける。

【主な質疑の内容】

問 内港再生のイメージについて、もっと具体案を知りたい。

答 公園や駐輪場、イベント広場等の配置は、今後検討していく。

問 身の丈にあったシンプルな最小限の計画にしたい。

答 市民が憩える空間、集える場所を優先して計画したい。

問 観光の観点から、活用についてどのような考えがあるのか。

答 内港には大型クルーザーが停泊しながら瀬戸内海を周遊している状況があるため、クルーズ誘致など水域の活用を図っていく。

令和4年第7回臨時会 賛否結果一覧

議案 番号	件 名	議決 年月日	議決 結果	村上 真以	岡田 直己	角田 寛	中迫 勇三	住田 誠	高原 伸一	木村 尚登	田中 裕規	杉谷 辰次	宮垣 秀正	正田 洋一	萩 由美子	児玉 敬三	岡 富雄	徳重 政時	伊藤 勝也	政平 智春	新元 昭	陶 範昭	中重 伸夫	岡本 純祥	梅本 秀明	分野 達見	寺田 元子	仁ノ岡 範之
議第102号	令和4年度三原市一般会計補正予算(第4号)	11月7日	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議	○	○	○	○	×	○

令和4年第8回定例会 賛否結果一覧

【全員賛成のもの】

議案番号	件名	議決年月日	議決結果	議案番号	件名	議決年月日	議決結果
議第104号	令和4年度三原市土地区画整理事業特別会計補正予算(第1号)	12月20日	原案可決	議第113号	三原市特別職の職員で常勤のものの給与に関する条例及び三原市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	12月20日	原案可決
議第105号	令和4年度三原市国民健康保険(事業勘定)特別会計補正予算(第1号)	12月20日	原案可決	議第114号	広島県市町総合事務組合規約の変更について	12月20日	原案可決
議第107号	三原市個人情報の保護に関する法律施行条例制定について	12月20日	原案可決	議第115号	三原市立小中学校空調設備整備PFI事業契約の変更について	12月20日	原案可決
議第108号	三原市情報公開条例の一部改正について	12月20日	原案可決	議第116号	三原市宇根山家族旅行村の指定管理者の指定について	12月20日	原案可決
議第109号	三原市と広島県との間における行政不服審査会事務の事務委託に関する規約の変更の協議について	12月20日	原案可決	議第117号	三原市北方グラウンド・ゴルフ場の指定管理者の指定について	12月20日	原案可決
議第110号	三原市職員の定年等に関する条例等の一部改正について	12月20日	原案可決	議第118号	三原市斎場の指定管理者の指定について	12月20日	原案可決
議第111号	三原市職員の給与に関する条例及び三原市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について	12月20日	原案可決	発第11号	三原市議会の個人情報の保護に関する条例の制定について	12月6日	原案可決
議第112号	三原市会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部改正について	12月20日	原案可決	発第12号	带状疱疹ワクチンへの助成並びに定期接種化を求める意見書の提出について	12月20日	原案可決

【賛否が分かれたもの】

議案番号	件名	議決年月日	議決結果	村上真以	岡田直己	角田寛	中迫勇三	住田誠	高原伸一	木村尚登	田中裕規	杉谷辰次	宮垣秀正	正田洋一	萩由美子	児玉敬三	岡富雄	徳重政時	伊藤勝也	政平智春	新元昭	陶範昭	中重伸夫	岡本純祥	梅本秀明	分野達見	寺田元子	仁ノ岡範之
議第85号	令和3年度三原市一般会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	×	○	議	○	○	○	○	×	○
議第86号	令和3年度三原市ケーブルネットワーク事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第87号	令和3年度三原市公共用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第88号	令和3年度三原市港湾事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第89号	令和3年度三原市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第90号	令和3年度三原市土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第91号	令和3年度三原市国民健康保険(事業勘定)特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第92号	令和3年度三原市国民健康保険(直営診療施設勘定)特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第93号	令和3年度三原市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第94号	令和3年度三原市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○

議案 番号	件 名	議 決 年月日	議決 結果	村 上	岡 田	角 広	中 迫	住 田	高 原	木 村	田 中	杉 谷	宮 垣	正 田	児 玉	岡 重	伊 藤	政 平	新 元	陶 重	中 岡	岡 本	梅 本	分 野	寺 田	仁 ノ 岡
議第95号	令和3年度三原市東町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第96号	令和3年度三原市中之町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第97号	令和3年度三原市沼田西町松江財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第98号	令和3年度三原市小泉町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第99号	令和3年度三原市本郷町本郷財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第100号	令和3年度三原市本郷町船木財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第101号	令和3年度三原市本郷町北方財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	12月6日	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	退	○	欠	○	○	議	○	○	○	○	○	○
議第103号	令和4年度三原市一般会計補正予算(第5号)	12月20日	原案可決	○	○	×	○	欠	○	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	議	○	○	○	○	×	○
議第106号	令和4年度三原市水道事業会計補正予算(第2号)	12月20日	原案可決	○	○	×	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	議	○	○	○	○	×	○
議第119号	三原市漁港管理条例の一部改正について	12月20日	原案可決	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議	○	○	○	○	○	○
議第120号	三原市営住宅等の指定管理者の指定について	12月20日	原案可決	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議	○	○	○	○	○	○
議第121号	市道路線の認定について	12月20日	原案可決	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議	○	○	○	○	○	○
議第122号	市道路線の認定について	12月20日	原案可決	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議	○	○	○	○	○	○

賛成：○ 反対：× 退席：退 本会議欠席（早退を含む）：欠 除斥：除 議長：議〔議長は採決に加わりません〕
※議第85号～議第101号について、令和3年度に監査委員であった児玉議員は自主的に退席した。

令和5年次回定例会 予定表 (令和5年2月1日現在)

月	日	曜	開会予定時刻	会 議
2	20	月	10時～	本会議 開会
	21	火		常任委員会（総務財務）
	22	水		常任委員会（厚生文教）
	24	金		常任委員会（経済建設）
	27	月		補正予算特別委員会
3	1	水		本会議 総括質問
	2	木		本会議 総括質問

月	日	曜	開会予定時刻	会 議
3	3	金	10時～	本会議 総括質問
	6	月		予算特別委員会
	7	火		予算特別委員会
	8	水	13時15分～	予算特別委員会
	9	木	10時～	予算特別委員会
	10	金		予算特別委員会
	14	火	14時～	本会議 閉会

※都合により日程を変更することがあります。

三原市議会広報広聴委員会
三原市港町三丁目5番1号
TEL 6716137
FAX 6314545

※「市議会だより」は、市役所1階ロビー・各支所・中央公民館・各地のコミセン等でも配布しております。

岡 富雄・高原伸一・村上真以
岡田直己・角 寛・中迫勇三
住田 誠・木村尚登・宮垣秀正
徳重政時・新元 昭・寺田元子

編集委員のつぶやき

新型コロナウイルスのパンデミックから3年。ロシアによるウクライナ侵攻から1年。テレワークやオンラインでのコミュニケーションなど、人々の生活スタイルや価値観は大きく変わりました。私たちは、便利さと対面の重要性を同時に知ることとなったような気がします。

目まぐるしく変化する世の中において、地方議会のあり方や役割は、どうあるべきなのか。模索しながら過ごす日々が、これからもしばらく続きそうです。

高原伸一

議会広報部会員

わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介しす
— 連載第51回 —

広島大学附属三原中学校一年

大元 瑛太

知っていますか？ 三原の海の現状を

広島大学附属三原中学校では、「光輝（かがやき）」という独自の授業があります。私たち一年生は、この授業で探究学習に励んでいます。班ごとに三原を題材にテーマを決めてSDGsに関わる研究を行っています。



私たちの班は、三原が海に面していることから、海の環境を調べることにしました。研究テーマは「瀬戸内海の抱える問題と自分たちにできる対策」です。最初にインターネットや本を使って調べました。そしてより正確な情報を知りたいと思うようになり、三原の海や川の水質を調査するために十二月にフィードバックを行いました。和久原川の下流二箇所と三原港でpHとCODを測定しました。結果は、三箇所ともきれいな川の基準より少し汚れていることが分かりました。また、三原の海をより身近に感じる事ができたとともに、さらに探究していききたい課題も出てきました。

今後は、調べた情報をもとに探究を深め、その成果をまとめて発表していきます。この探究学習を通して私は、三原の海が多くの人たちの心を豊かにしてくれるものになるよう貢献していきたいです。

如水館中学校二年

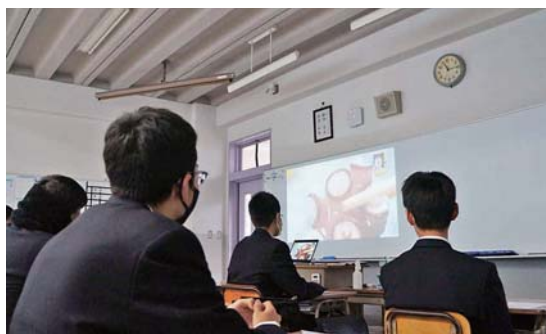
渡邊 小葉

私の住む三原

私は、学校の授業で、有名人が日本の様々な場所へ行き、その町の有名な食べ物を紹介する、という番組を観ました。その時観たのは、私が今住んでいる三原市の有名な食べ物紹介されている回で、とても驚くと同時に嬉しかったです。

そこでは三原市の特産品である、たこを使った料理の店や、鳥もつが入ったお好み焼きの店が紹介されていました。その店に行った有名人は、料理をとっても美味しそうに食べていました。また、「三原に来て良かった」と仰る姿を見て、私はとても誇らしい気持ちになりました。

私は、この番組を観て、この三原の町は素晴らしい食べ物で溢れているということに改めて気付きました。また、三原に住む人たちが協力して、三原の食文化をつないでいることが分かりました。私も三原の素晴らしい食べ物、色んな所へ広め、三原の食文化を継承したいと考えました。そのため、三原の良い所をたくさん見つけ、それをまずは近くの人達に伝えていこうと思います。たくさんの人に三原の良さを知ってもらえると嬉しいです。



広島三育学院中学校三年

仲本 未花子

3年ぶりのクリスマスコンサート

聖歌隊とは、讃美歌を通して神様を伝道する合唱団です。現在男女各18名、計36名で活動しています。週4回の全体練習や個人の練習を通して、曲の完成度を高めています。

一年の活動の中でも大イベントは、クリスマスコンサートです。この日のために、皆さんが一度は聞いたことのあるクリスマスソングや有名な讃美歌のメドレーなど、十数曲を練習してきました。今年度は3年ぶりに、大和町下徳良にある大和文化センタークレオホールでコンサートを開催しました。

12月2日、初めて訪れたホールは小劇場のようで、ここで本当に歌えるんだ！と胸が躍りました。本来であればキャンパス内の小学生と高校生も一緒に演奏するはずだったのですが、新型コロナウイルスの影響で急ぎよ参加できなくなりました。私たちは、来ることができなかつた人たちの分も含めてベストを尽くそうという思いで本番に臨み、今まで練習してきたことを精一杯出し尽くすことができました。

会場を整えてくださり、歌う機会を与えてくださったすべての方々に、感謝しています。

